

令和四年第1回定例会 提案理由説明書（二月二十八日追加提案）

冒頭、大分宇宙港に関して、新たな動きがありましたので、御報告いたします。

一昨日の二十六日、大分県と米国の宇宙開発企業 シェラ・スペース社、そして、日本の代理店である兼松株式会社の三者で、パートナーシップを締結しました。

シェラ・スペース社は、再利用型の宇宙往還機「ドリーム・チェイサー」によって、地球と国際宇宙ステーションをつなぎ、物資や人員の輸送を成し遂げようと準備を進めている世界的企業です。今回のパートナーシップは、この「ドリーム・チェイサー」が宇宙から地球に帰還する際の着陸場所として、大分空港を利用できないか、本格的な検討をしていこうというものであります。

プロジェクト推進にあたり、まずは安全性や環境面での検討から始めてまいります。これが前に進んでいけば、ヴァージン・オービット社との人工衛星打ち上げのプロジェクトと相まって、大分宇宙港を日本やアジア全体の宇宙産業の拠点として活用しようという、大きな期待の実現に、また強力な足掛かりができるものと思います。

ただ今追加提案しました議案は、第四十二号議案から第五十四号議案までの十三件であります。

一 補正予算の概要

はじめに、第四十二号議案 令和三年度大分県一般会計補正予算（第十三号）について説明申し上げます。

本県では、国土強靱化五か年加速化対策など、国の経済対策の大部分を既に予算措置し、前倒しで事業に着手しているところです。続いて今回、農林水産業関連の施設整備や教育現場におけるネットワーク環境の強化などに関する予算を追加で受け入れ、ポストコロナの大分県づくりを前進させます。

（観光業の振興）

県経済を大きく動かす観光業に関しても、ゴールデンウィーク明けの開始を予定している大分県版「新たなGo Toトラベル」について、国からの配分額を予算計上します。これにより、先週再開した「新しいおおいた旅割」と併せ、旅行需要を切れ目なく喚起していきます。

コロナ禍を経て、アウトドア観光などのニーズが高まる中、とみに面白くなったと評判なのが大分農業文化公園です。これから春先のネモフィラシーズンも、また楽しみなところですが、先に発表した愛称「るるパーク」に思いを込めました「自然の中で憩える、遊べる、健康になれる、そして学べる、楽しさ満載の公園」として、更なる高みを目指します。そのためには、どういった園内整備などが必要なか、その調査分析・計画立案に着手したいと考えています。なお、来園者の安全・安心のため、早めの対応を要する遊具の修繕やトイレの洋式化などは、これを待たずに整備を始めます。

(児童虐待対応力の強化)

子育て満足度日本一を掲げる大分県として、こうした公園整備をはじめ、子どもを産み育てやすい環境づくりに注力する中、虐待によって幼い命が奪われる、大変痛ましい事件が依然、全国的に後を絶ちません。

県内でも、児童虐待の相談は多様化・複雑化し、その件数も高止まり傾向にあります。そのため来年度、中央児童相談所の児童福祉司等を増員するとともに、新たに「部」を設けて組織力を強化します。とりわけ、この中央児童相談所が対応する虐待事案の半数以上は、大分市内の案件となっています。そこで四月からは、城崎分室を設置し、大分市とより緊密に連携して対策を講ずることとしました。

このような取組により、児童虐待は絶対に許さないという強い覚悟の下、虐待防止はもとより、事案の早期発見から迅速な対応、アフターケアに至るまで、組織を挙げて、盤石の支援体制で臨んでまいります。

(補正予算の額)

今回の補正予算では、これらに加え、感染症対策や生活福祉資金の特例貸付などの執行状況等を勘案した増額のほか、災害復旧費の減額や予算執行段階の節約などの結果、差し引き補正予算額の合計は、六十五億六千六百一十一万二千元の増額となります。

このほか、特別会計では、公債管理特別会計など十一の会計で六十七億五千六百三十二万二千元を増額するとともに、病院事業会計でも十億四千五百七十七万五千元を増額します。

以上をもちまして、提出しました諸議案の説明を終ります。

何とぞ、慎重御審議のうえ、御賛同いただきますようお願い申し上げます。